

2017年(平成29年)

第112号

(4月1日)

平安月報
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

第6回 福幸(復興)の祈り ～各教団青年部が宗教協力を確認～

3月20日、第6回「福幸(復興)の祈り」が京都教会法座席で開催され、新宗連京都府協議会加盟教団(立正佼成会、パーフェクトリバティー教団、天恩教、松緑神道大和山)の青年部が参加しました。京都教会青年部からも6名が参加し、他団体の青年部員さんと交流を深めました。

京都府協議会副議長の三觜富和師による主催者代表挨拶に始まり、折鶴奉納、教団別福幸(復興)の祈り、黙祷が行われました。続いて新宗連事務局次長の生田茂夫師の講演、グループシェア、最後に京都府協議会青年担当委員の鉢呂金太郎師から総括が述べられました。

生田師の講演では、宗教団体の弾圧の歴史についての説明があり、「戦後、新憲法ができ信教の自由があっても再び宗教弾圧があってはならず、教団が個々の動きでは国家権力に対抗できないということから、新宗教の連合体が必要である」と、新宗連結成に至るまでの解説がありました。また青年会組織の結成についても説明があり、活動の原点は「祈り」であると述べました。小さな活動でも必ず平和に繋がっていると、比較的歴史の浅い京都府協議会の活動にその意義を称えました。そして京都独自の活動に、祇園祭曳き手ボランティアの紹介を行いました。



信仰のおかげ」「宗教が違って、みんな一緒ということが分かった」「今日の機会が有り難い。宗教協力の大切さを感じた」「教団毎に大事にしていることを尊重する」「話し合うことで相手の宗教を理解できるし、自分の宗教の理解も深まる」など多くの意見が挙げられ、宗教協力の大切さを肌で感じられた時間となりました。

総括の鉢呂師は「宗教団体同士が手を取り合うのは日本の風土に合っているように思う。災害が多いから日本人は手を取り合える。今回参加している青年が次の青年に代々伝えて頂きたい。たくさん集まって頂くにはどうしたらいいか、考えて頂きたい」とこれから



グループシェアの発表では「宗教をしていなかったら自己中心だったかも」「教えがあるから、気づけることがある。」



の青年の活躍に期待を寄せました。午後からは立食形式で昼食を取り、終始和やかな懇親会となり日頃の活動内容など交流を深めました。

時事刻々

最近、何気ない街中で行列ができているのをよく目にします。朝早くから折りたたみ椅子持参の人まです。スマホをチエックしながら待っている人もたくさんいました▼ひと昔前なら、評判の店を見つければ、雑誌が主流だったという人も多いでしょう。活字からネットで情報を得る時代に、確実に変わっていると感じさせられます▼総務省の「情報通信白書」によると、「雑誌」で飲食店の情報を調べる人、2010年は6割でしたが、5年後には半減しています。「スマホ・携帯」が1割ほどから4倍に増えているそうです▼ところが、「友人・知人等」からの情報を得る人は、7割以上をキープしているようです。ネット社会にあっても、人と人とのつながりが生きていることを垣間見た気がします▼世の中はどんどん便利になってきています。新しい道具をうまく使うことも必要ですが、人と人が直接出会って、心の通い合う交流を大事にしたいものです。

今月のことば ～「時間の浪費」～

青年部 井原理江

今月は、女子部の井原が担当させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

4月の会長先生のご法話のタイトルを読んで、私はすぐに耳が痛いなぁと思いました。『時間の浪費』については、常日頃から自分自身が感じている事だからです。同じように、人には毎日24時間という時間が与えられているのに、私はその24時間を有意義に使えているのかとても自信がありません。日本人には“勿体ない”という特有の考え方もありますし、時間を持て余している事がむしろ「悪」でもあるかのように勤勉な性質であることも関係していると思います。しかし、一生懸命に活動するためには充分なリラックスタイムや遊びも必要ですし、オンとオフの切り替えを私たちの心の中で上手に行うことが大切なことではないかと思えます。

私は現在、体調不良のために医師から休職の指示を頂き、自宅療養を行っている日々です。看護の現場から離れて3ヵ月になりますが、自宅療養というのは、体験してみると非常に苦痛に思えます。それは、同期に後れをとってしまうという焦りや、時間を持て余してしまうという精神的なものです。反面、仕事している時にはできなかった教会参拝や地区でのお役、夜間法座に参加させてもらえるということは有難いことです。しかし、どうしても仕事をしている時の自分と現在の自分の状況を比較して、休職している現在の自分は、人生の中で大きく時間の浪費をしているという思いに捉われてしまうのです。仕事をしているからと言って、ムダな時間を過ごさなかった訳でもないですが、仕事をしている自分は○で、休職している自分は×だと勝手に決めつけて苦しんでいるのです。

しかし、会長先生のご法話の中で『仏法の本質からすれば、人も物もすべての現象も、どれ一つとして、むだなものはないと見えてくる』と説かれています。私はこの言葉の意味がなかなか理解できませんでした

が、不思議と今の状況にある自分を許せるような気持ちになりました。ご法話を何度も読ませて頂き、自分の気持ちを深く見つめてみたところ、私が今の自分を受け入れにくかった根本が見えてきたように思いました。

私が看護師を志した理由は、若くして生涯を終えた二人の弟と共に育った家庭環境から、**人さまの命を助ける為のお役に立ちたい**と思ったからでした。しかし、現在は自分の体調不良の為に、その現場から離れざるを得ない状況です。人さまのお役に立ちたかったのに、今はそれどころか人さまのお世話になっていることが悔しく、また応援してくれた家族をはじめとする沢山の方に申し訳なく思っている自分がいることに気付いたのでした。

慣れない環境での仕事は緊張の連続ですし、命の現場では特に時間を気にして動き、一刻の猶予もないことがしばしばあります。そんな中で自分自身の無力さに情けなくなり、腹が立つ思いもしょっちゅうでした。そして、私は誰かのお役に立てているのか分からなくなっていました。しかし、こうした長い休職を体験し、**今月のご法話に出会えたことで、働けない日々がこんなに苦痛に感じ、時間を浪費している**と見えるほど、私は人さまのお役に立ちたかったこと、病気の方の側でその方々のお役に立ちたかったことに気付かせて頂きました。

人さまの為にと思うあまり、自分の調和、調和の世界の一員としての自分を見失い、無意識のうちに命のムダ遣いをしていたのかも知れません。しかし、折角頂いたこの休職という時間を、仏さまから頂いた自分を省みる時間、新たな自分を見つけるための時間として大切に過ごさせて頂き、復職した時にこれまで以上に病棟の方のお役に立てる私になれるよう精進して参りたいと思います。有難うございました。

合掌

ブログ変更のお知らせ ～ニコニコサンガ～

日頃ご覧頂いている京都教会のブログのアドレスが変更になります。

今までライブドアにて運用していましたが、4月1日からJUGEM(ジュゲム)というサイトになります。

新しいアドレスは

<http://rkkkinkikyoto.jugem.jp/>

(右欄の画面はパソコン用です)

もしくはスマートフォンのリーダーで右のQRコードを読み込んで下さい。

今後ともよろしくお願い致します。



ニコニコサンガ

京都教会のブログです



calendar

S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	
<< March 2017 >>						

平安月報3月号

📖📄

平安月報3月号が出来ました。

今月は

1面：涅槃会式典

2面：今月のことば、会員紹介

3面：節分会式典、祇園祭ボランティア21総会、お知らせ

4面：『平和への道』よりの構成になっています。

ぜひご覧になって下さい。→平安月報3月号

第28回全国車いす駅伝ボランティア ～大会運営を陰で支える～

3月12日に「第28回全国車いす駅伝競走大会」が行われ、車いすランナーが都大路を駆け抜けました。京都教会青年部は、前日から選手団の受け入れボランティアとして参加しました。

11日は午前中から10名の青年部員が国立京都国際会館の駐車場で待機し、全国から自家用車で到着された選手団の受け入れを行いました。足が不自由な方でも運転できる車いす仕様の車をご自身で運転し、各自で京都まで来られました。到着された選手の車を、駐車スペースを考慮しながら笑顔で誘導出来ました。



12日の大会当日は朝一番に西京極運動公園中央広場に集合し、前日宿泊された宝ヶ池プリンスホテルから運ばれてくる常用車いすの降車作業を行いました。その後、11時のレースが開始されると、走り終えた選手が区間ごとの市バスに乗って到着し、バスからの降車介助を行いました。走り切った達成感溢れる選手に「お疲れさまでした」と声をかけると「ありがとう」という返事があり、その場に一体感がありました。



すべての選手が到着されると、青年部員は再び国立京都国際会館に移動し、前日に駐車されていた選手の降車介助を行いました。

2日間、雨は降らなかったものの風がきつく寒さを感じるものでしたが、初めてボランティアに参加した部員さんは、「遠方より来て頂いた選手の方達をお迎えることができることで、喜んでもらえる嬉しさがあった」と、笑顔で話してくれました。また大会前日は東日本大震災があった日でもあり、黙祷も行われ、被災者の方々を想うと、もっと寒く辛い思いをされていたに違いなし、と感じたようでした。



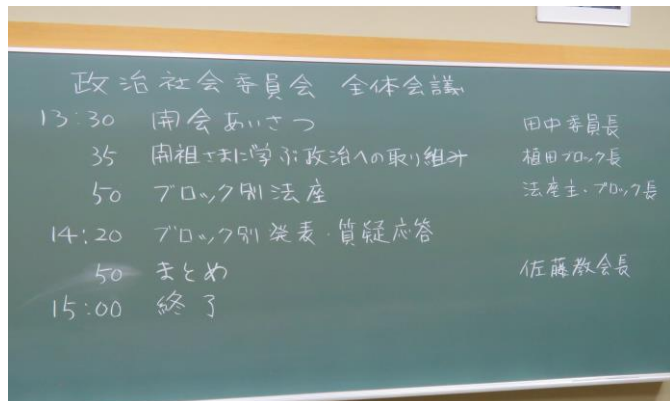
日頃から政治に関心を ～今年初めての政治社会委員会全体会議～

3月5日の午後、今年に入って初めての「政治社会委員会全体会議」が開催され、佐藤教会長をはじめ、渉外部長・壮年部長・各支部長・支部政治社会委員が参加しました。

開会のあいさつでは、田中政治社会委員長から、今までの選挙に対する取り組みの実績と、お礼が述べられ、引き続き「開祖さまに学ぶ政治への取り組み」の説明が、植田ブロック長からありました。

その後、選挙区割りになっているブロック毎に法座を行い、各支部における会員さんの政治への関心度や意識向上への取り組みなど、様々な話し合いが行われました。最後に、ブロック別発表と質疑応答が行われました。まとめとして、佐藤教会長から「政治に無関

心な方々により多くの声かけをし、意識付けをしていくことが大切です」と結びを頂きました。この委員会は今後3ヶ月毎に開催され、次回は6月の予定です。



法華經にみる平和の教え『法華經の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

前回は、庭野開祖が法華經を突き詰めていくことで、「宗教協力」に行き着いたと教わりました。今回と次回
の2回をかけて、宗教協力の意義について理解を深めていきたいと思ひます。 (編集部)

終戦後、いわゆる新宗教は、それぞれにたいへんな勢いで興隆し、発展しました。興隆・発展する当然な理由があったのですが、出るクギは打たれるのたたとにもれず、小さなアラなどを捜しては攻撃・圧迫を加えてくる外部勢力があり、弱小な教団は自力で自らを守ることでもできず、不利な立場にありました。立正佼成会も、いろいろな中傷・迫害を受けました。

そうしたおり、新宗教も連合体を造ったほうがよいのではないか、という意見が出、結成の動きが始まりました。わたしも賛同し、最初からその運動に加わりました。そして、昭和26年10月に新日本宗教団体連合会(新宗連)が設立されました。

設立当時、世間の人びとは、「教祖たちの集まりが、うまくいくはずはない。みんな、自分こそ偉いと信じている“神々”だから、すぐケンカになるだろう」と、冷やかし半分に見ていました。しかし、発足当初から、まことに和気あいあいたるもので、世間の『期待』を裏切ったのです。

もっとも、理想主義者のわたしは、お互いが教義を公開し、勉強し合おうではないか……と提案したのです。ところが、PL教団の御木徳近先生に「庭野さん、教義なんぞをいじくったら、收拾がつかないことになりすよ」と忠告されて、それを引っ込めました。実際、そのとおりであって、理想と現実との間には長い時間をかけてジックリ解決していかなければならぬ、大きなギャップがあるのです。そのことを、わたしも、だんだん実地に知るようになりました。

わたしの考えは、こうです。

この宇宙と、そこに存在するさまざまな物体や生命体の根源を探るとゆきますと、ただ一つのエネルギー

に帰着します。そのエネルギーがさまざまにはたらきだして万物・万象を造り現わしているのです。仏教では、その根本のエネルギーを<空>といい、ある科学者はプランク常数hであるといっていますが、とにかく、それが宇宙の生命そのものであることは間違いなく、それ以外には考えようがありません。

根源の生命を<空>とか、エネルギーとか言っても、普通の人間にとっては、どうもピンときません。それゆえ、その根源の生命を仏教では<仏>といい、キリスト教やイスラム教では<神>と呼ぶのです。呪物崇拜や、偶像崇拜を主とする宗教は別として、正しい大宗教であるかぎり、その信仰の対象となる大本のものは一つである、ということが出来ます。

では、なぜ世界中にたくさんの違った宗教があるのかのいいますと、昔は地球上の交通が不便で、それぞれの人種や民族が、てんでに小さな集団をなして生活し、それぞれの集団にそれぞれの<神>を持ちました。この<神>には、自分たちを守護してくれる靈魂といった意味もあれば、宇宙の根源の生命という意味の神もありました。前者はその集団のみに通用する神ですが、後者は万国共通のものであるはずです。

しかも、民族同士の意思疎通がなかなかできなかった時代には、神の呼び名や信仰の所作が違うために、お互いに異なった神仏を信仰しているように思い込んでいました。ですから、わが宗教以外は邪宗である、異端であると信じ込み、相互に理解したり、融和したりすることが困難でした。それどころか、多くの宗教戦争がおこり、宗教のために大虐殺をするなどという事件さえ、たびたびおこりました。

(以下、次回に続く)

4～5月の主な教会行事			●メッセージ
4月1日(土)	9:00～	朔日参り	<p>新宗連青年部主催の「福幸の祈り」を取材してきました。今回、初めて参加したというパーフェクトリバティー教団の女性と懇親会で話す機会がありました。彼女は実家がパーフェクトリバティー教団の会員で、自教団以外は訪れる機会がなく、ましてや今回のようにグループシェアでお互いの信仰生活について語り合うことはいい意味で刺激になったようでした。自分たち以外にも信仰をしている人がいる、お互いの教えを尊重し合い認め合う。彼女なりの表現で語ってくれた一言一言はこちらも新鮮で、宗教協力の大切さを逆に教えて頂いたように感じました。先達が作り上げられてきた宗教協力。次代を継承していくのは私達です。</p>
2日(日)	9:00～	花まつり	
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日	
8日(土)	9:00～	降誕会	
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日	
13日(木)	7:00～	議員懇話会	
15日(土)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日	
5月1日(月)	9:00～	朔日参り	
4日(木)	9:00～	開祖さまご命日	
10日(水)	9:00～	脇祖さまご命日	
15日(月)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日	
21日(日)	10:00～	青年の日こころひとつにフェスティバル	